

世界的な異常気象や日本が地震の活動期に入ったなか、新婦人は「ハザードマップでのおしゃべり、防災カフェやウオッチングで、避難所の耐震・備蓄、避難路、避難訓練や防災教育など心配なことを出しあい、自治体へ要望しよう」(大会決定)と、各地で活動が始まっています。いくつかの経験を紹介します。

ママのための防災ミニ講座 島根・松江支部ニュースより

9月20日地域の公民館で、市防災安全課から来てもらい、市の出前講座で「ママのための防災ミニ講座」を開催。3.11で被災した子育て中のママが作った防災手帖(市販)、市が配布している水害・土砂災害・津波のハザードマップなどを参考にしながら、避難時のポイントを話してもらいました。例えば、「ベビーカーでは避難しない方がいい」という話に、みんなが「なるほど〜」とうなづく場面も。非常持ち出しグッズの紹介が、リズムサポーターからあり、「サララップなど気づかなかった物がいろいろ活用できる…参考になりました」「防災グッズを車に置いておくと聞き、それいい!と思った」と、ママたちには好評でした。また、「わが家の備蓄品は全然足りないことに愕然とした。でも、少しずつ揃えていきたい」と前向きな感想も。

そして、県都で唯一原発がある松江市の防災として大事なのが原発事故です。子どもたちの放射能の健康被害は大きく心配。2歳と4歳の子どもをもつママ

「地震や土砂災害時の避難については、何となくイメージがわいたけれど、原発事故の避難については、どの方向に放射能が流れるのかなどの情報が届くのだろうかと不安です。今度は原子力の担当課の方のお話を聞きたい」という意見も。とにかく、わからないことだらけなので、近いうちに第2回目を計画しようと話し合っています。



お昼は備蓄している非常食アルファ米をみんなで試食。パックにお湯を入れて20分待つとご飯が出来上がりました。「非常食を使ったアレンジメニューの調理実習もやってみたい」などの声もだされました。

市の出前講座で防災カフェ

愛知・尾張旭支部さくら班

◇なぜやることに…

おしゃべりカフェの時に、ある会員が「市の家具転倒防止支援事業を利用して家具の転倒防止器具を取り付けてもらった」と発言したのをきっかけに、「防災カフェをしよう」ということになりました。事前に、お知らせのチラシをつくり、新婦人しんぶんに折り込み、地域には配布しました。

◇市の説明は…

- 市の災害対策室担当者の話は、
- 地震ハザードマップと風水害ハザードマップで説明。南海トラフ巨大地震の最大震度は6弱の想定。猿投一高浜活断層帯地震や風水害時の危険区域についての説明も。尾張旭市は震度6弱と予測。
 - 市の事業は、家具転倒防止支援の他に、防災ラジオの普及、備蓄事業など。
 - 災害予防・減災は、耐震診断・家の耐震化、家具転倒防止、備蓄がポイント。持ち出し品と備蓄品の考え方についても。
- 市の補助金→家具の転倒防止の対象者は65歳以上の夫婦、障害者などで1世帯5カ所のみ(器具は自己負担)
- 防災倉庫は市内に3カ所あり、8500人分の1日分の食料を保管。今後5年かけて3日分の備蓄ができる

よう整備していく。食料品の他に、簡易間仕切り、毛布、ブルーシート、飲料水用ポリタンク、テント組み立て用パイプなど

◇参加者の感想交流

「家具転倒防止をしたけれど、物を整理したり、移動させたりするのが大変だった」
「家全体の耐震化に500万もかかるから躊躇している」(市からシェルター設営補助制度があると助言があった)
「地域では、町内会が防災組織をつくって活発に活動している」
などの発言がありました。

その後の班会では、9月22日付新婦人しんぶん「防災ウオッチング」の記事(資料裏)を読み合わせ。
「防災カフェの後に何をしたらいいのかなと思っていただけ、やれることがたくさんある」
「近くにアンダーパスがあるので、災害時の危険表示はどうなっているのか調べよう」「紙おむつはどうだったかな?防災倉庫の備蓄一覧表をもらってこよう」などの意見が出されました。
また、備蓄が少ない、ローソクはランタンに、避難所に公民館も、転倒防止の設置は5カ所以上になど、